令和３年度　尚絅大学短期大学部附属こども園　学校評価
（評価対象年度：令和３年度）

1　学校（自己）評価　令和３年度　尚絅大学短期大学部附属こども園　学校評価

本園の教育目標　附属こども園の理念・使命・目的に基づき、就学までに次のような子どもを育成することを目標として教育・保育を行う

（１）恵まれた自然環境の中で、いきいきと遊ぶ子ども
（２）すなおに自分を表現する子ども
（３）人とのかかわりの中で思いやりや親しみをもつ子ども
（４）心豊かで、創造性のある子ども
（５）遊びを工夫し、進んで行動する子ども

令和３年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価　　対象：教職員58名、回答数58名、回答率100％

評価はABCの3段階とします。以下の2～6頁のⅠ～Ⅴの「評価」で、A評価が2/3以上ある場合がA評価を、2/3以上AまたはB評価がある場合を「B」ランク、それ以外を「C」ランクとします。

重点目標（事業計画）に対する自己評価の総括

	評価の観点	評価	成果及び課題■
1	教育・保育内容の改革と尚絅らしさの追求	B （昨年度） （B）	①保育者達は、新型コロナ禍中で様々なことに気を配りながらも、自然環境を生かして遊びながら実感的に学ぶことを重視して環境の構成（教育的な意図）を図り、園児の心身の発達を助長することに努力しています。 ②今年度、「給食の計画」と「食育の計画」を一体化させた計画を完成させました。新型コロナ禍中で食する体験が少なくなりましたが、園児との栽培・収穫活動は行いました。 ③短大との連携強化では、幼児教育学科の新規卒業生5名を採用できました。 ■教育・保育の「全体的な計画（教育課程）」を完成させ、次年度から実践と改善のフェーズに入ります。 ■令和5年度からの新学部創設に当たり、教育実習の実施期日、方法、内容等の在り方の検討を進めています。 ■特別な支援を必要とする園児と配慮を必要とする保護者が増えているので、今後、園児の安全確保のために人数を制限したり、保育補助を補助金で増員したりして対応したいと考えています。 ■DX化の推進では、HPの動画配信、リモートの保育、一時預かり保育のメール受付等に取り組んでいますが、今後、担任事務の簡略化等のアプリの選定をします。保護者への便り等を「安心安全メール®」で150回超送信しています。
2	園児の確保	A （A）	①園児の確保（定員290名）については、3歳年少児(1号)の確保ができなかったことが影響して284名でしたが、日頃から、保護者の様々なご要望に応え丁寧な保護者対応、魅力あるHPやポスターなどに努めてきました。 ■今後、園全体の教育・保育の充実と教職員の確保を基盤に、満三歳児を増やしたり3号0歳児を増やしたり2・3号園児を定員の120%まで受け入れたり、定員自体を全体的に見直すなどにも取組み、園児の定員確保と収支均衡を実現します。
3	子育て支援の充実	A （A）	①在園児保護者へは「子育て相談会」「おしゃべり広場」「親と子の集い」などが好評でした。 ②新型コロナ禍中、3つの学年が交わる放課後の時間の感染防止対策を工夫しました。 ③地域保護者への支援は「子育て支援室どんぐりルーム」を中心に、園見学やイベント、短期大学部との連携、随時子育て相談会等が充実し好評でした。 ■1号園児の一時預かり保育ではメール受付システムを構築し保護者の利便性を向上させました。 ■特別な支援を要する園児と配慮を必要とする保護者に対して、保育者は、今後とも療育施設との連携や近隣市町担当課との連携等を推進します。
4	教育・保育の指導力向上	A （B）	①園内研修は全体的な計画づくりを中心に行いました。新型コロナ禍中、研修会参加がほとんどでリモートでしたが、処遇改善Ⅱの取得のために研修受講実績の取得に努めています。R4年度は近隣保育所等との合同研修会を主催します。 ②生活科学部食育推進プロジェクトチームと協力して、噛むことを中心に、園児の生涯の健康の基礎を築くことをめざしてきました。実態調査、アンケート、便り、学生の保育参加等を次年度まで継続します。 ③教育実習は、新型コロナ禍中でしたが、感染防止対策を施し、短縮バージョンを編成して行いました。 ■教職員のライフステージに応じた資質の向上のための園内研修・園外研修の充実を図ります。大学・短期大学部の知見に基づく研修の実施と、連携した教育・保育や食育の実践研究を実施します。
5	地域連携の拡充	B (C)	①新型コロナ禍中、地域、世代間、小学校との交流や研修等が満足にできませんでした。中学校区での連携事業や地元町教委との連携は行いました。 ②地域の療育施設に通う園児が増え、交流・連携・学び合いを推進しました。 ■新型コロナ禍中、交流や連携には限界がありました。今後もコロナ感染防止を最優先に、状況の変化に応じて実施していきたいと考えています。

１学校（自己）評価　令和３年度　尚絅大学短期大学部附属こども園　学校評価

令和３年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価　　対象：教職員58名、回答数58名、回答率100％

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A：十分達成、B：概ね達成、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
Ⅰ教育・保育内容の改革と尚絅らしさの追求	１豊かな自然環境を生かした特色ある園づくり	(1)自然環境の整備	①尚絅らしい豊かな自然を生かした環境の整備・充実	A	①日頃の環境整備・補修に努め、園全体の環境を活用し園児の発達や興味関心、季節等を配慮した創造・構成する教育・保育を実践してきました。 ②保育者達は、新型コロナ禍中で様々なことに気を配りながらも、自然環境を生かして遊びながら実感的に学ぶことを重視して環境の構成（教育的な意図）を図り、園児の心身の発達を助長することに努力していることがうかがえます。保育者自らのA評価（87.1%）から教職員の自負と頑張りを感じます。
		(2)特別な配慮を必要とする園児への環境の充実	①園全体の環境を活用・創造・構成する教育・保育の実践	A	①特別な配慮を必要とする園児に寄り添い理解し、安全にかつ特性に対応し、日常の情報交換、養育施設等と連携した実践を行いA評価(85.1%)でした。 ②特別な支援を必要とする園児と配慮を必要とする保護者が増えているので、今後、園児の安全確保のために人数を制限したり、保育補助を補助金で増員したりして対応したいと考えています。
	２教育・保育内容の充実	(1)教育・保育内容の改善	①「全体的な計画(教育課程)」の改善と作成及び年間行事の改善と実践 ②デジタル教材の活用	B	①日々必要な教育・保育計画を立てて実践しつつ「全体的な計画(教育課程)」を完成させました。次年度から実践と改善のフェーズに入りB評価（82.8%）でした。 ②会議や研修会のリモート開催・出席はもちろん、登園自粛中のZoomによるリモート保育の実施、HP上で動画配信、一時預かり保育のメール受付、保護者連絡を150回超メールに添付して行うなどのデジタル化・ペーパーレス化を行いました。 ■今後、担任事務の簡略化等のアプリの選定をします。
		(2)大学・短期大学部及び外部専門機関との連携強化	①幼児教育学科及び食物栄養学科との連携	B	①幼児教育学科と実習の在り方を検討したり、教育・保育を学んだりしておりB評価(72.4%)でした。 ②短大との連携強化の成果のひとつとして、幼教の新卒を5名採用できました。 ■令和4年度まで食物栄養学科と「噛む」ことに係る研究・啓発を継続します。
		(3)主体的に自然を体験する学びの推進	①安全かつ特性に対応し、療育施設等と連携した実践	A	①日々、園児が、季節の草花や野菜・果実、種や実等の植物や虫等に興味関心を示し親しむ体験ができるように関わりA評価(100%)でした。
	３生きる力を育む食育活動の推進	(1)園児が主体的に関わる栽培と収穫活動	①園児が積極的に栽培、手入れ、収穫に関わる場と時間の確保	A	①園児が、いろいろな野菜の栽培・手入れ・収穫を楽しむ体験ができるように、新型コロナ禍中ながらも計画的に行いA評価(93.1%)でした。 ②今年度も食育活動の推進には反省が残りB評価(81.0%)でしたが、園児との栽培・収穫活動についてはA評価(93.1%)でした。一体化した「給食の計画」と「食育の計画」を完成させました。
		(2)給食指導と食育活動が一体となった食育計画の作成	①尚絅らしい「食育の計画」「給食の計画」の作成	B	①日頃の給食指導の充実と、尚絅らしい「食育の計画」「給食の計画」を作成しましたがB評価(81.0%)でした。 ■今後、バージョンアップしながら実践する段階に入ります。
		(3)食育活動を中心としたカリキュラムマネジメントの作成	①尚絅らしい「全体的な計画（教育課程）」と「食育の計画」「給食の計画」を関連付けたカリキュラムマネジメント	C	①「全体的な計画(教育課程)」の中に、「食育の計画」と「給食の計画」を位置付け、相互に関連した計画を作成し、実践を行いました。 ■新型コロナ禍中で、園児と共に食する体験が少なかったことがC評価(69.0%)に繋っています。これまでとは違った場面や食べ方を工夫していきます。

１学校（自己）評価　令和３年度　尚絅大学短期大学部附属こども園　学校評価

令和３年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価　　対象：教職員58名、回答数58名、回答率100％

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A：十分達成、B：概ね達成、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
Ⅱ園児の確保	１園児募集に関する方法と広報活動の改善	(1)園児募集の方法の検討と実施	①抽選制の実施及び入園優先枠（弟妹枠）の検討・実施	A	①園児の確保（定員290名）については、従来の在園児弟妹枠に加えて卒園児小学生弟妹枠を設けて実施しましたが、3歳年少児(1号)の確保ができなかったことが影響して284名でした。施策についての評価はA評価(96.6%)です。 ②日頃から、保護者の様々なご要望に応え丁寧な保護者対応を行い、魅力あるHPやポスターの地域店頭設置依頼等などに努めています。 ■今後、園全体の教育・保育の充実と教職員の確保を基盤に、満三歳児を増やしたり3号0歳児を増やしたり2・3号園児を定員の120%まで受け入れたり、定員自体を全体的に見直すなどにも取組み、園児の定員確保と収支均衡を実現します。
		(2)多様な広報活動の実施	①HPのお知らせ欄、ポスター、パンフレット等の充実	A	①HPで、本園のよさや保護者の喜びにつながる情報の提供を年間に約150件程度行いA評価(86.2%)でした。
		(3)保護者への説明会・見学会の強化	①園の特色をPRするプレゼンと見学会の充実	A	①わかりやすい資料を配付し、プレゼンを工夫した説明会・見学会を行ってきた。コロナ禍の中、規模や時間を縮小して実施しておりA評価(87.9%)でした。
		(4)幼児教育無償化への対応	①４市町村（菊陽町・合志市・熊本市・西原村）との連携強化	A	①園児の所在地である4市町村に対応した幼児教育無償化の事務を行いA評価(93.1%)でした。

１学校（自己）評価　令和３年度　尚絅大学短期大学部附属こども園　学校評価

令和３年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価　　対象：教職員58名、回答数58名、回答率100％

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A：十分達成、B：概ね達成、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
Ⅲ子育て支援の充実	１在園児保護者への子育て支援	(1)講演会・子育て相談・援助の実施	①教育講演会、定期的な子育て相談会、個人面談、保護者交流会の実施	A	①在園児保護者への支援は、保護者のニーズに対応し困り感に寄り添った支援を行ってきました。「子育て相談会」「誕生会」「おしゃべり広場」「親と子の集い」などが好評でA評価（87.9%）です。
		(2)延長保育・預かり保育の充実	①申込システムの改善（デジタル化）と職員の連携強化	A	①保護者のニーズに応え、人員面・制度面で可能な限りの延長・預り保育を行いました。 ②また、コロナ禍もあり、預かり保育の申し込み受付を書面からメールに変更しA評価（89.7%）でした。 ③コロナ禍中、3つの学年が交わる放課後の時間の感染防止対策を工夫しています。 ④1号園児の一時預かり保育の充実では、メールでの受付システムを構築し、保護者の利便性を向上させA評価（89.7%）でした。
		(3)特別支援教育の充実	①定期的発達相談会の実施、４市町村や療育施設との連携、研修会への参加	A	①日々、教職員が協力して、園児への特別な配慮や関わりを精いっぱい行いA評価（98.3%）でした。 ②特別な配慮を必要とする園児の保護者に対して、4市町村や療育施設と連携し、担任等の随時相談や家庭連絡、専門機関の発達相談等を行ってきました。
		(4)健康管理の実施	①健康診断や衛生検査の実施と園児の健康増進の啓発	A	①環境衛生検査や健康診断等を実施し、保護者との情報の共有と治療や活用を行いA評価（96.6%）でした。 ②日常の応急手当とともに、安全性を高めるための安全点検と危険個所への即時対応・修繕を行いました。 ③保健だより等で必要な情報の啓発・共有も行いました。
	２地域保護者への子育て支援	(1)子育て支援室の利活用	①どんぐりルームの開催	A	①子育て支援室どんぐりルームを中心に、行事や随時子育て相談、情報提供等を行いA評価（94.8%）でした。
		(2)尚絅子育て研究センター等との連携	①どんぐりルームでの講演会や相談会の実施	A	①コロナ禍中、国や県からの発出を守りながら、子育て支援室どんぐりルームで、保護者に対して、尚絅子育て研究センター教員による「子育て相談会」や子育て相談会を実施しA評価（86.2%）でした。
		(3)保育体験の実施	①どんぐりルームで保育体験交流イベントを実施	A	①子育て支援室どんぐりルームで保育体験や交流の場を設けA評価（86.2%）でした。
		(4)子育て相談、外部専門機関の紹介	①随時子育て相談と外部諸機関による相談会の実施、相談機関の紹介	A	①コロナ禍中でしたが、開催中は随時子育て相談等を行い、未就園児をもつ保護者の支援に努め保護者の園理解を促進しA評価（91.4%）でした。 ②必要な保護者には外部専門機関を紹介し、課題の解決を行いました。

１学校（自己）評価　令和３年度　尚絅大学短期大学部附属こども園　学校評価

令和３年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価　　対象：教職員58名、回答数58名、回答率100％

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A：十分達成、B：概ね達成、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題■
Ⅳ教育・保育の指導力向上	１園内研修の充実	(1)教育・保育要領に対応した保育研究	①研究保育と保育研究会を通した園内研修の実施	B	①園内研修では、それぞれの保育者が目標を立てて取り組む「目標達成度評価」の活用とともに、研究テーマに即した「全体的な計画」の作成や保育研究、実践は行いましたが、新型コロナの対応に時間を取られ、研究保育ができなかったことが課題となりB評価（82.8%）でした。 ■教職員のライフステージに応じた資質の向上のための園内研修・園外研修の充実を図ります。大学・短期大学部の知見に基づく研修の実施と、連携した教育・保育や食育の実践研究を実施します。
		(2)特別支援教育・人権教育に関する研修の強化	①支援に関わる特別支援教育士との連携等、研修の充実	A	①園内で研修すると共に養育施設と連携し情報を交換し合い、教育・保育の実践的な研修を行いA評価（86.2%）でした。
		(3)子どもの主体性を育む環境会議の実施	①教職員が共通のねらい・内容・環境・配慮のもとで行う教育・保育の実践	A	①園全体の豊かな自然環境を、計画的に協議しながら構成するための会議を通して、遊び(学び)と生活が充実する「質の高い教育・保育」を実践しA評価（86.2%）でした。
	２研修会・研究会等の積極的参加	(1)学園・大学・短期大学関連の研修会への参加	①尚絅学園、大学・短期大学部が主催する研修会への参加	B	①園内研修や新規採用教員研修への講師協力依頼、短期大学部や外部専門機関等の研修はほとんどリモートやオンデマンドで行いました。 ②処遇改善Ⅱの取得のために研修受講実績の取得に努め、A評価（82.3%）でした。 ■新型コロナ禍が収まり、研修会に参加できるようになることを望んでいます。R4年度は近隣地域の幼稚園・こども園等との合同研修会を担当します。
		(2)特別支援教育・人権教育の研修会への参加	①県・市・町及び全幼研、全保研等が主催する特別支援教育等への参加	A	①行政機関や保育団体、保育業者等が主催する研修会等へ参加（リモートやオンデマンド）しA評価（86.2%）でした。
		(3)実技研修会・その他の研修会等への参加	①自然活用や体験活動を重視した教育・保育研修への参加と報会の実施	A	①県・市・町及び全幼研、全保研等が主催する幼児教育、特別支援教育等の研修会へ参加（リモートやオンデマンド）でA評価（89.7%）でした。
	３短期大学部との合同研修及び研究会の開催	(1)短期大学部との定期的、計画的な連携	①園内研修への計画的な講師協力依頼	A	①生活科学部「食育推進プロジェクトチーム」と協力して、「噛む」ことを中心に、園児の生涯の健康の基礎を築くことをめざして実態調査、アンケート、便り、学生の保育参加などを実施してきておりA評価（86.2%）でした。次年度まで継続します。
		(2)実習生指導計画案の内容検討	①幼児教育学科教員と本園教員との連携協力による指導の充実	A	①教育実習は新型コロナ禍中で、短縮バージョンを編成して行いA評価（96.6%）でした。 ②実習生の教育・保育力の向上に尽力するとともに、実習を通してお互いの学びの充実を図りました。 ③実習生の経済的支援として、生活用品・食品・衛生用品を教職員と保護者に募り、実習生全員に供与しました。 ■令和5年度の新学部創設に当たり、教育実習の実施期日、方法、内容等の在り方の検討を進めています。

１学校（自己）評価　令和３年度　尚絅大学短期大学部附属こども園　学校評価

令和３年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価　　対象：教職員58名、回答数58名、回答率100％

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A：十分達成、B：概ね達成、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
Ⅴ地域連携の拡充	１地域交流の充実	(1)地域老人会との連携強化	①行事への参加協力依頼（新春のつどい、美化活動等）	C	①8月下旬の美化作業は30名程度の保護者と教職員で実施しました。 ②コロナ禍中、地域、世代間、小学校との交流や研修等が満足にできずC評価（38.8%）でした。 ③中学校区での連携事業や地元町教委との連携は行ってきました。 ④地域の療育施設に通う園児が増え、交流・連携・学び合いを推進しています。（92.2%）。 ■コロナ禍中、交流や連携には限界がありました。今後もコロナ感染症防止を最優先に、状況の変化に応じて実施していきたいと考えています。
		(2)世代間交流の推進	①祖父母との交流依頼（新春のつどい、夏の夜の森の遊び等）	B	①夏の夜の森の遊びは付き添い者を１名に限定して実施したため、祖父母の参加はありませんでした。B評価（77.6%）。 ■コロナ禍後を見据えた交流の方法を考えます。
	２円滑な幼小連携の推進	(1)職員による学校訪問と小学校教員に向けての公開保育の実施	①小学校と相互訪問・研修、幼保小中連携カリキュラムの検討・作成	A	①「幼・保・小、中連携推進協議会」の事業を協力して行っており、今年度は「学びのマップ」づくりに取り掛かりB評価（89.7%）でした。 ②「幼保小中連携カリキュラム」を作成し、町に提案しました。
		(1)就学に向けた連絡会の実施	①就学先小学校との連絡及び三市町教委との連携	A	①コロナ禍の中、可能な限り小学校との相互訪問・研修、卒園児に関する情報交換等の連携を行いA評価（94.8%）でした。 ②就学先小学校との相互連絡及び、4市町（菊陽町、合志市、熊本市、西原村）教委との連携・協力も行いました。

２学校関係者評価　令和３年度　尚絅大学短期大学部附属こども園　学校評価

Ⅰ　乳児期の保育のねらいである「３つの発達」に照らして、わが子がその方向に育っていると思われるか、他子育て支援等

１　調査時期　令和４年３月
２　調査対象　乳児ひよこ組保護者８名、回答数７名、回答率８７．５％
３　評価基準
（１）１～３：評価の観点（3つの発達）
　　4.とても育っていると思う　　3.だいたい育っていると思う　　2.あまり育っていないと思う　　1.まったく育っていないと思う
（２）４～５：本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価
　　4 .とても満足している　　3.だいたい満足している　　2. あまり満足していない　　1.まったく満足していない

	（１）評価の観点（３つの発達）		4	3	2	1
1	身体的発達（健やかに伸び伸びと育つ）	□保護者や保育者等の愛情豊かな受容のもとで、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をしはじめている □はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かしはじめている □授乳や離乳をすすめていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ食べることを楽しみはじめている □生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をしはじめている □おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じはじめている	71.4	28.6	0	0
2	社会的発達（身近な人と気持ちが通じ合う）	□保護者や保育者等の応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ安定感をもって過ごしはじめている □保護者や保育者等に体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらいやり取りを楽しみはじめている □自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表わしはじめている □保護者や保育者等の語り掛けや発声への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育ちはじめている □保護者や保育者等の温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生えはじめている	85.7	14.3	0	0
3	精神的発達（身近なものと関わり、感性が育つ）	□身近な生活用具、玩具や絵本など、身の回りのものに対する興味や好奇心をもちはじめている □様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きが豊かになりはじめている □保護者や保育者等と一緒に、様々な色彩や形のものや絵本などを見はじめている □玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど手や指を使って遊びはじめている □保護者や保育者等のあやし遊びに機嫌よく応じはじめている □歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しみはじめている	100	0	0	0
	（２）本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価		4	3	2	1
4	子育て支援事業への満足度	私は、尚絅こども園で行われている「子育て支援事業」全般に満足している。	71.4	28.6	0	0
5	経営、教育・保育全般への満足度	私は、園の教育・保育のあり方、安全面、環境面（施設・遊具・教材・絵本等）、給食、情報提供等の経営全般に満足している。	57.1	42.9	0	0

２学校関係者評価　令和３年度　尚絅大学短期大学部附属こども園　学校評価

Ⅱ　幼児教育のねらいである「５つの領域」に照らして、わが子がその方向に育っていると思われるか、他子育て支援等

１　調査時期　令和４年３月
２　調査対象　１歳りす組・２歳うさぎ組保護者28名、回答数21名、回答率75.0％
３　評価基準
（１）１～５：評価の観点（５つの領域）
　　4.とても育っていると思う　　3.だいたい育っていると思う　　2.あまり育っていないと思う　　1.まったく育っていないと思う
（２）６～７：本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価
　　4 .とても満足している　　3.だいたい満足している　　2 .あまり満足していない　　1. まったく満足していない

	（１）評価の観点（５つの領域）		4	3	2	1
1	健康	□先生や友達との生活リズムに慣れはじめている □体をいっぱい使って遊ぼうとしている □多くの食品に慣れ、食事を楽しもうとしている □手を洗うなど清潔の習慣がしだいに身に付きはじめている □衣類の着脱を自分でしようとしている □自分から便器で排せつしようとしている	61.9	38.1	0	0
2	人間関係	□先生や友達と一緒に心地よく暮らしはじめている □先生や友達と適切な行動や言葉で関わろうとしている □園生活にきまりがあることや、その大切さに気付きはじめている □みなし遊び（真似）やごっこ遊びを楽しもうとしている	66.7	33.3	0	0
3	環境	□いろいろな感覚を働かせて身近な環境に興味や関心、好奇心をもちはじめている □おもちゃ、絵本、園庭の遊具を使った遊びを楽しもうとしている □身の回りにある物の形や色、大きさや量などの性質や仕組みに興味をもちはじめている □自分の物と人の物との区別に、しだいに気付きはじめている □自分が過ごすのにふさわしい場所や居場所を見つけて遊ぼうとしている □身近な生き物に気付き、親しみをもちはじめている □季節の行事などに興味や関心をもちはじめている	85.7	14.3	0	0
4	言葉	□自分の欲求や気持ちを自分なりの言葉で伝えようとしている □生活に必要な言葉を聞き分けはじめている □日常の様々なあいさつをしたり応じたりしはじめている □絵本や物語等に親しみをもち、まねをしたりして遊ぼうとしている □生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現しようとしている	90.5	9.5	0	0
5	表現	□水、砂、土、紙、年度など様々な素材に触れて楽しもうとしている □音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しもうとしている □生活の中で、様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどを感じて楽しもうとしている □歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しもうとしている □生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現しようとしている	76.2	23.8	0	0
	（２）本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価		4	3	2	1
6	子育て支援事業への満足度	私は、尚絅こども園で行われている「子育て支援事業」全般に満足している。	52.4	47.6	0	0
7	経営、教育・保育全般への満足度	私は、園の教育・保育のあり方、安全面、環境面（施設・遊具・教材・絵本等）、給食、情報提供等の経営全般に満足している。	61.9	38.1	0	0

Ⅲ　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿１０「１０の姿」に照らして、わが子（園児）がその方向に育っていると思われるか？

1　調査時期　令和４年３月
2　調査対象　満３歳以上の園児の保護者266名、回答数253名、回答率95.1％。正規・契約教員28名、回答数28名、回答率100％
3　評価基準　４．とても育っていると思う ３．だいたい育っていると思う ２．あまり育っていないと思う １．まったく育っていないと思う

評価の観点（１０の姿）			保護者				教職員			
			4	3	2	1	4	3	2	1
1	健康な心と体	健康で安全な生活を意識しはじめ、十分に体を動かして喜んで遊ぶ方向に育っている	70.0	28.9	1.1	0.0	21.4	78.6	0.0	0.0
2	自立心	主体的・積極的に環境と関わり楽しみ、達成感や自信をもつ方向に育っている	56.3	40.0	3.2	0.5	32.1	53.6	14.3	0.0
3	協同性	言葉で友達と関わり、共通の目的に向かう活動を喜び合い成長する方向に育っている	51.6	42.6	5.8	0.0	14.3	75.0	10.7	0.0
4	道徳性・規範意識の芽生え	友達との関わりや生活の中で、善悪を判断し、相手の立場を理解する方向に育っている	47.4	47.4	5.3	0.0	10.7	75.0	14.3	0.0
5	社会生活との関わり	友達や身近な人々へ目を向け、人を大切にしたり人の役に立つことを喜びと感じたりする方向に育っている	57.9	39.5	2.6	0.0	14.3	75.0	10.7	0.0
6	思考力の芽生え	身近な環境に感じ・気づき・考え、予想したり、周りの友達との関わりの中で工夫したり考え直したりする方向に育っている	50.5	45.3	4.2	0.0	25.0	71.4	3.6	0.0
7	自然との関わり・生命尊重	身近な自然物に関心をもち楽しみ、感動したり命をかけがえのないものと感じる方向に育っている	55.8	39.5	4.7	0.0	28.6	60.7	10.7	0.0
8	数量や図形、標識や文字などへの興味・感覚	遊びや生活の中の数量や図形、絵本等で出会う文字等に興味関心をもつ方向に育っている	56.3	37.4	6.3	0.0	14.3	78.6	7.1	0.0
9	言葉による伝え合い	経験したことを言葉で伝え合うとともに、相手の話をよく聞く方向に育っている	45.3	48.9	5.8	0.0	21.4	67.9	10.7	0.0
10	豊かな感性と表現	身近なことに感動したり、友達の表現に感じたり、自分で表現することを楽しむ方向に育っている	58.5	34.7	6.8	0.0	28.6	64.3	7.1	0.0

学校関係者評価に対する総括

	評価の観点 （文科省が教育・保育要領で示したねらい）	評価	成果と課題
Ⅰ	０歳児 「３つの発達」	A	1 0歳ひよこ組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て「3つの発達（身体的・社会的・精神的）」が、おおむね順調に発達していると思われています。 2 社会的な発達については、「ゆるやかな担任制保育」を展開し、親の次に親しみをもつ保育者との気持ちがより通じ合うように工夫していることが功を奏していると自己評価している。 3 精神的発達においては、豊富な遊具や保育者自作遊具等に恵まれて順調な発達をしていると評価しています。
Ⅱ	１・２歳児 「５つの領域」	A	1 1歳りす組・2歳うさぎ組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て「5つの領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）」が、おおむね順調に発達していると思われています。 2 保護者は、広い園庭や恵まれた施設、森や芝生広場等において健やかに伸び伸びと育つ環境を用意できていることを望ましい環境と評価しておられます。 3 どの領域においても「あまり育っていない」とお考えの保護者はおられません。保育者達は、愛情をもって応答的・受容的な保育を実践しています。
Ⅲ	3・4・5歳児 「１０の姿」	A	1 満3歳ぱんだ組～年長組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て、認定こども園の教育・保育修了時の具体的な姿である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10」に照らして、全項目とも90%を超えるみなさまが発達の段階に沿った順調な育ちをしていると思われています。 2 内容別にみると、満3歳～年長組まで共通して「健康な心と体」が98.9%と高く、コロナ禍中でわが子の心身の健康面にとても配意されたことを感じます。家庭でも園でも最も大切にしていることです。 3 教職員は、「健康な心と体」と「思考力芽生え」が高くて95%を超えましたが、「自立心」と「規範意識」が85%程度でした。昨年度評価が低かった「数量や図形、標識や文字などへの興味・感覚」は、今年度は保育者達がずいぶん意識して取り組んだから改善できたものと思われます。 4 保護者より教職員の方が全体的に低い評価です。これは、保育者の方が集団の中の園児の素の姿を見ていることと、さらに良くなって欲しいという願いや更なる実践をしなくてはという使命感も含まれていると考えています。 5 新型コロナ禍ではありますが、子育て支援事業や園の経営、教育・保育に対してはおおまかにご満足いただいています。

評価は、保護者が「評価の観点」毎に、4:とても育っている、3:だいたい育っている、2:あまり育っていない、1:まったく育っていないの4段階で評価し、割合(%)を算出した。
それを、評価4と評価3を足した割合を算出し、80%以上がA、80%未満70%以上がB、70%未満50%以上がCと評価した。

学校（第三者）評価　令和３年度　尚絅大学短期大学部附属こども園　学校評価

1　評価委員会開催日時　令和４年３月　書面表決
2　調査対象　学校評価委員６名（祖父母代表、杉の子会（PTA）会長、学園関係者４名）回答数100%（※地域代表の方は評価不可能で辞退）
3　評価基準
評価の観点Ⅰ～Ⅴ：４達成していると思う　３だいたい達成していると思う　２あまり達成していないと思う　１達成していないと思う
評価の観点１～６：４充実していると思う　３だいたい充実していると思う　２あまり充実していないと思う　１充実していないと思う

評価の観点（Ⅰ～Ⅴは事業計画の項目、１～６は経営・管理面）	4	3	2	1
Ⅰ　教育・保育内容の改善と尚絅らしさの追求～豊かな自然環境を生かした特色ある園づくり～	50.0	50.0	0.0	0
Ⅱ　園児の確保～園児募集に関する方法や広報活動等の改善～	33.3	33.3	33.4	0
Ⅲ　子育て支援の充実～在園児保護者・地域保護者～	33.3	50.0	16.7	0
Ⅳ　教育・保育の指導力向上～園内研修の充実、園外研究会等への積極的参加、短期大学部との連携～	33.3	66. 7	0.0	0
Ⅴ　地域連携～地域との交流、幼少接続の推進～	0.0	83.3	16.7	0
1　経営・管理面（安全面、園児確保、教員の確保、広報、コンプライアンス等）	16.6	50.0	33.4	0
2　労働面（やりがい、人間関係、広報、コンプライアンス等）	33.3	50.0	16.7	0
3　教員としてのライフステージに応じた指導力の向上	33.3	66.7	0.0	0
4　特別支援教育、人権教育、安全教育、食育等	16.6	83.4	0.0	0
5　大学・短大との連携、教育実習の充実	50.0	33.3	16.7	0
6　保護者(杉の子会)、地域、行政、療育施設、近隣小中学校等との連携	16.6	50.0	33.4	0

評価委員の意見・質問及びこども園からの回答

○私は孫が8人います。そのうち3名が尚絅様にお世話になり大変感謝致しております。本当にありがとうございました。何の恩返しも出来ず申し訳ありません。貴園の益々の発展心よりお祈りし、園長、職員さまのご健勝をお見守り致しております。 →地域社会への貢献の証です。嬉しく思います。	○園児募集活動にひと工夫が必要な時期となりました。他の園の成功事例を研究し、本園に取り入れてください。 →公開されている情報をもとに地域性等も考慮して研究します。	○幼児教育学科との連携につきましては、日頃より、ご協力、また、ご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。新たに設置予定の子ども教育学部（仮称）とも、一層の連携・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。 →4年生大学生の教育実習の在り方を継続して検討していきます。	○いつも実習等でお世話になっております。いつも気になるのが幼児棟の先生方の勤務時間です。実習指導でもご負担をおかけしているかと思います。幼児棟の先生方も、子育てをしながら安心して働ける労働時間の確保を共に考えていきたいと願っております。 →子育てをしながら働き続けることができる職場をめざします。	○新型コロナウィルス感染症拡大に係る諸問題は、特に子ども達に大きな影響を及ぼすと考えます。感染しにくい・重症化しにくい子ども達には来年度以降は日常の生活を取り戻してほしいものです。こども園の先生方もとても大変な事とは存じますが、子ども達の健全な成長のためにご尽力いただきたく思います。 →コロナ禍を克服しつつ前進するように努力して参ります。	○昔のように園の教育理念を理解してどうしても入園したかったという保護者は少なくなり、抽選によりどこでも入れるところへという選択や、新型コロナの影響もあり情報が少なくなっているせいか、理解されなく残念に感じました。オーガニックや早期教育等に関しては園の取組ではなく家庭で用意・教育するものであり、先生任せの回答が目立っていたのは残念でした。社会全体として共働き世帯が増えて、時間や心に余裕がなくなっており、便りを読まない・交流しない“人任せ”な考えがどんどん増えていくのではないかと思います。 →園経営と教育・保育のさらなる充実に努めます。

学校評価の総括

Ⅰ　保護者も保育者も、園児は大まかにめざす方向に育っていると評価しています。

Ⅱ　保護者も第三者評価委員の方々も、園経営はほぼ充実していると評価されています。

Ⅲ　コロナ禍中ではありましたが、保育者は教師力を高める研修と大学・短期大学部との連携、及び地域関係諸機関・小学校・団体等との連携や交流が不足していると考えています。今後の充実に努力します。

Ⅳ　今後の課題として、以下のことが必要であると考えています。

1　尚絅らしい教育・保育を充実させます。
「全体的な計画（教育課程）」を実践しつつ創造し改善を加えていくことを通して、園児達の健やかな成長を図り、在園児保護者・地域子育て保護者から信頼される園にしていくことが最も重要だと考えます。

2　教員（保育教諭）・パート教員（担任の補助）の確保が基盤となります。
保育者の売り手市場の現状に対応し、教職員の求人活動を行っています。尚絅大学短期大学部幼児教育科との相互協力関係の中で大卒新規採用も推進します。国の処遇改善Ⅱの実施を図ります。

3　園児の定員確保と収支均衡を実現させるための諸課題の検討、公定価格の研究を行います。
今後、満三歳児を増やしたり3号0歳児を増やしたり2・3号園児を定員の120%まで受け入れたり、定員自体を全体的に見直すなどにも取組み、園児の定員確保と収支均衡を実現します。

4　特別な配慮を必要とする園児への安全かつ有効な教育・保育、及び保護者支援を行います。
教職員の人数確保、特別支援教育の研修、療育施設との連携、菊陽町との連携（子育て相談会等）、保護者への組織的対応。

5　園内研修・園外研修の充実を図ります。
教職員のライフステージに応じた資質の向上のための園内研修・園外研修の充実。キャリアアップ研修の受講と処遇改善Ⅱ。
大学・短期大学部の知見に基づく研修の実施と、連携した教育・保育や食育の実践研究の実施。

6　教育実習の在り方を幼児教育科と連携して検討・改善します。
教育実習の実施期日、方法、内容等の在り方の改善。4年生学部新設への対応。

7　園行事の見直しをPTA（杉の子会）と協働で取り組みます。
保護者の相反するニーズ（弁当日、行事の回数、PTA活動の内容・回数等）を調和させた行事の見直しと、保護者の無理の少ない活動の実現。

8　施設設備等の安全性の向上に努めます。
幼児棟は、2005年に建築してから18年目のメインテナンスが必要です。

9　園業務や服務管理等のDX化
教職員や保護者の利便性を高めるためのデジタル化の推進。